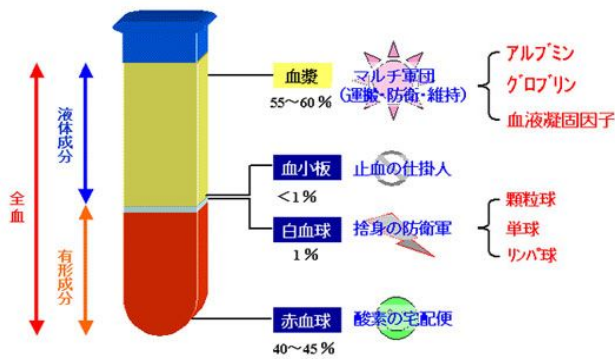
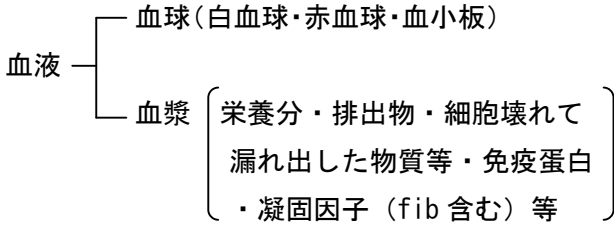


この冬の寒さは身体にこたえます。ノロウィルスが猛威を奮っています。手洗いをまめにしましょう。今回から血清、血漿の作成方法を記載していきます。

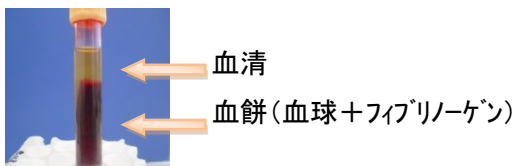
血液は有形成分(血球)と液体成分があります。



血漿成分の代表は蛋白であり、糖質、脂質、免疫蛋白、凝固因子、排泄分、細胞から漏れ出した酵素等各種成分が混在しています。これ等の目的成分を測定するためにはそれぞれ適正な検体の作成が重要になるのです。

一般に血清といわれている材料は血液を凝固させ血球を血餅の状態に固めた上清が血清です。

血餅とは血液が凝固して血球がフィブリンで固められたものです。フィブリンの元はフィブリノーゲンです。



それでは血漿とは？血清と血漿の違いは何でしょう。血漿は抗凝固剤入りの採血管に分注して作成します。血漿は血液に抗凝固剤が加わるため凝固はしていません。そのため血漿中にはフィブリノーゲンが含まれています。

血漿 = 血清 + 凝固因子(フィブリノーゲン等)
凝固因子は蛋白の一種です。その為総蛋白を測定すると血漿 > 血清となります。

抗凝固剤にはヘパリン、クエン酸、EDTA などがあり、検査の種類により選択します。

一般的に使われる採血管

血清分離用採血管



血清を採取するための採血管です。中に血清と血餅を分離するためのシリコン、凝固促進剤が入っています。生化学・ホルモン・抗体検査等広く使われます。
* 血中薬物測定では、シリコンに薬物が若干吸着します。

ヘパリン採血管



動物病院でよくつかわれる採血管がヘパリン入りの採血管です。



中に抗凝固剤のヘパリンが入っています。ヘパリンが血液の凝固を抑えてくれます。しかし凝固作用はあまり強くありません。生化学、ホルモン、等幅広く使うことが可能です。血球計数にも使えますが、時間とともに血小板が凝集してきます。

EDTA 抗凝固剤入り採血管



血球計数、白血球分類の検査に用います。一般にキャップは紫色です。EDTA 塩(Na/K)が入っており、血液の凝固作用を強力に抑えます。EDTA 塩成分の為、生化学検査はお勧めできません。

アプロチン EDTA 抗凝固剤入り採血管



EDTA と蛋白分解阻害剤のアプロチン(トランゾール)が入っています。PTH-rp 等特殊な検査で血漿を使用します。血漿は別容器に移し凍結保存してください。

クエン酸抗凝固剤入り採血管



凝固検査用の採血管です。クエン酸 Na 水溶液が 0.2ml 入っています。血液を 1.8ml 分注します。血液とクエン酸の比率 9:1 を守ってください。血漿を分離し、別容器に移し凍結保存します。



●ノロウイルス・インフルエンザウイルスなどの感染が流行する時期になりました。

・感染症にかからいように「予防すること」が重要。

ノロウイルス

流行時期は11月～4月です。

ノロウイルスはヒトの腸管内で増殖し、下痢や嘔吐を引き起こします。

【ノロウイルス4大対策】

- 1、2度の手洗い
洗ってふいて・消毒をする
- 2、環境の清浄
多くの人に触れる場所がポイントです
- 3、汚物の処理
すばやく適切な処理が感染予防の決め手
- 4、健康管理

*ノロウイルスは細菌に比べ1/300～1/100と小さく、手のしわに深く入り込むので、ウイルスを完全に除去しにくく、手洗いはより丁寧に行わなければなりません。

インフルエンザウイルス

流行時期は12月～5月です。

インフルエンザとは、インフルエンザウイルスによる感染症で、典型的インフルエンザの症状は突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などで、のどの痛み、咳、鼻水などもみられます。普通のかぜに比べて全身症状が強いのが特徴です。

【インフルエンザの予防】、

- 予防接種を受ける
- 栄養と休養を十分にとる
- 適度な温度、湿度を保つ
- 人ごみを避ける
- マスクを着用する（咳エチケット）
- 手洗いとうがいをする



外から帰ったら
石鹸で手を洗い
ましょう



◆◆◆猫の雑学◆◆◆

◎何度も猫が、ヒトの足に頭をこすりつけてくるのはなぜ??



★答えは、飼い主が大好きだからという甘えの行動と自分のものだと言いたくてにおいをつけています。

・猫は、おでこ、口の両端、あごの下、しっぽの付け根などには臭腺があります。

飼い主にとってうれしいのは、猫のすりすりです。外出して帰宅したときなど、玄関出迎えに来て、自分の顔や体を飼い主の体にこすりつけてきます。飼い主はすりすりされると、みるみる元気になってしまいます。

・すりすりには、意図的に体を浮かせたり、くねらせたりしながら、特定の部分をこすりつけようとしています。猫には、おでこや口の両端、あごの下、しっぽの付け根などに臭いを分泌する臭腺があります。猫は自分にとって身近なもの、愛情を感じているものに対して、この臭腺から分泌される物質をこすりつけることで、「ボクのものにおいをつけた。だからキミはボクのモノだと」と主張しています。

・猫は、自分と同化させることでより安心できます。飼い主は気がつきませんが、猫にすりすりされている飼い主の体は、その猫のにおいでいっぱいです。猫は飼い主の体についている自分のにおいをかいで確認することで「うん、ボクのものにおいがするニャ」と安心します。猫は周囲が自分のにおいで満たされているほど、リラックスできるのです。